



インターネットで 電子申請・届出サービスが利用できます

問 企画政策課 ☎84-0312

県や町役場などの窓口で行っている届出などの手続きが、家庭のパソコンなどからインターネット経由で利用できるサービスです。

神奈川電子自治体共同運営 サービス

町では、県と市町村が共同で運営している「神奈川電子自治体共同運営サービス」を利用し、インターネットでの各種申請や届出を受け付けています。

このサービスでは、スマートフォン・携帯電話やパソコンなどから住民票の写しの交付申請や印鑑登録証明書の交付などが、いつでもどこからでも行えます。

操作方法については、コールセンターにお問い合わせください。

コールセンター

☎057000-5353

受付時間 9時～15時

(土・日、祝日、年末年始を除く)

証明書の受領や手数料の払いは？

このサービスでの手続きは、

申請・届出のため、証明書の交付受領や手数料の支払いなどは、役場窓口に来ていただく必要があります。



開成町電子申請・届出システムで手続きできるもの

申請書類	担当課と問い合わせ先
公文書公開請求	総務課 ☎84-0310
自己情報の開示請求	
町営住宅不在届申請	財務課 ☎84-0322
印鑑登録証明書交付申請	税務窓口課 ☎84-0313
住民票記載事項証明交付申請	
住民票の写し交付申請	
住民票付記転出届	
犬の死亡届出	環境防災課 ☎84-0314
犬の登録事項変更	
し尿処理申込	

電子申請・届出サービスへのアクセス方法

- 町HP <http://www.town.kaisei.kanagawa.jp/>
- 電子申請・届出サービスHP <http://shinsei.e-kanagawa.lg.jp/kanagawa/navi/index.html>

浄化槽は維持管理が大切です

「10月1日は「浄化槽の日」」

問 環境防災課 ☎84-0314

小田原保健福祉事務所足柄上センター

生活衛生課 ☎83-5111



浄化槽は、微生物の働きを利用し

て、汚水をきれいにする装置です。そのため、微生物が活動しやすい環境を保つように維持管理をすることが大切です。

法定検査

浄化槽設置後3～8か月以内に、以降は1年に1回、定期的に県知事の指定する検査機関による検査を受けなければなりません。これは、保守点検や清掃が適正に行われ、正常な性能を発揮しているかを第三者機関が検査するもので、保守点検とは異なります。

問 (一社) 神奈川県保健協会西湘支所
☎0463-173-0511

保守点検

機械の点検や補修、消毒剤の補充などを行います。県知事の登録を受けた業者で年3～4回を目安に受けてください。

問 県知事登録の点検業者へ

清掃

浄化槽内にたまった汚泥などを抜き取る作業を行います。毎年1～2回の清掃が必要です。

問 (有)共和衛生工業 ☎82-0030

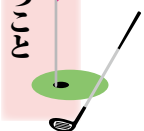
合併処理浄化槽への切り替え

合併処理浄化槽は、単独処理浄化槽とは違い、トイレの汚水だけでなく、台所や風呂など家庭で発生した全ての排水を処理します。

町では合併処理浄化槽設置補助制度を設けています。補助対象者は、市街化調整区域のうち下水道予定処理区域以外の地域に、合併処理浄化槽を建築確認を伴わずに設置する方で、前に単独浄化槽又はくみ取り便槽を使用していた方です。申請は環境防災課へお問い合わせください。

健康の秘訣は

趣味を持つこと



ろに來ちやた、と思ったものです」と当時の様子を懐かしみます。やがて宮台に家を建てて今に至っているそうですが、その間に開成町の様子は随分と変わりました。お二人の60年はどんな年月だったのでしょうか。

くうなずいている利隆さんは2歳年下。当時としては恋愛で、しかも年下の男性と結婚することは珍しかったそうです。数年の交際期間を経て昭和30年5月に結婚。利隆さん22歳、すみ子さん24歳でした。

家族で開成町へ

利隆さんの勤める会社が開成町に工場を作るということで、昭和44年に開成町に引っ越してきました。当初は利隆さんが単身でやってきて岡野にある工場に住み込んでの生活だったそうです。「お風呂がなかったので銭湯は松田まで、食堂は南足柄まで出かけました」と振り返る利隆さん。「田んぼと畑ばかりで何もないところ」



写真上は新婚の頃の黒野さんご夫婦。利隆さんがセルフタイマーで撮影したもの。当時は家に暗室を作って現像までしていたそうです。写真下は現在の黒野さんご夫婦。

町にも60年の歴史があればご夫婦にもお二人で重ねた60年の年月がある、しみじみと良いお話を伺えました。

まちづくり情報特派員
石崎 雅美

町制施行60周年ということで、私たち情報特派員はいろいろな切り口で取材を行っています。

今回は、今年開成町で結婚生活60年「ダイヤモンド婚」を迎えた宮台にお住まいの黒野利隆さん、すみ子さんご夫妻にお話を伺いました。町が歩んできたのと同じ60年の年月を「夫婦として家庭を築き歩んできたお二人。いったいどんなドラマがあったのでしょうか。」

戦争の記憶は今も鮮明に

愛知県の刈谷市で生まれ育ったすみ子さん、「戦前、戦中、戦後を体験してきました。小学校を卒業してあこがれの女学校に上がったものの戦争が激しくなって兵器を作る作業をすることになって…」と、お話は第二次世界大戦の頃のことから始まりました。今年、終戦から70年の節目の年でもあり、開成町が誕生するほんの10年前にはまだ日本は戦争中だったのだということをお話

運命の出会いが職場



戦争が終わり、女学校から新制の高等学校に進み、卒業後は洋裁学校で学んだすみ子さんは、姉の夫が経営する会社で働くようになり、そこで利隆さんと出会います。「年配の社員ばかりだった中に若い人が入ってきて、それはもう気になって…」と、出会った頃のことを恥ずかしそうに話すすみ子さんの傍でやさし